

[29_4]図書館情報：九州大学附属図書館報：29(4)

<https://doi.org/10.15017/27228>

出版情報：図書館情報. 29 (4), pp.27-38, 1994-03-01. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：



図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 29, No. 4 (1994)

目次

・ルーヴァン大学図書館に学ぶ	27
・「九州大学附属図書館一般市民等利用内規」の制定について	29
・CD-ROM版特許公報検索方法	30
・中山文庫について	35
・「KITE」によるOPACサービス開始	35
・本学教官・名誉教授著作寄贈図書	35
・第13回西洋社会科学古典資料講習会に参加して	36
・インターネットで利用できる欧米の図書館	37
・自然科学系特別図書の購入について	38

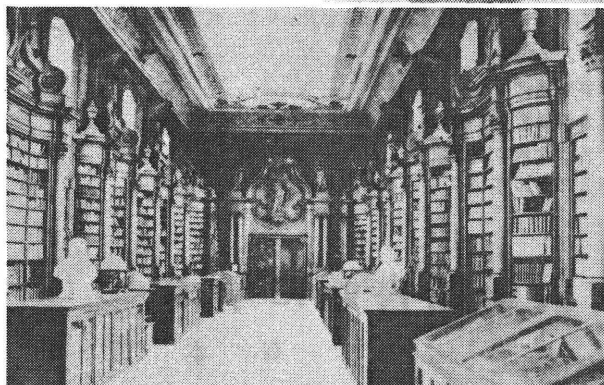
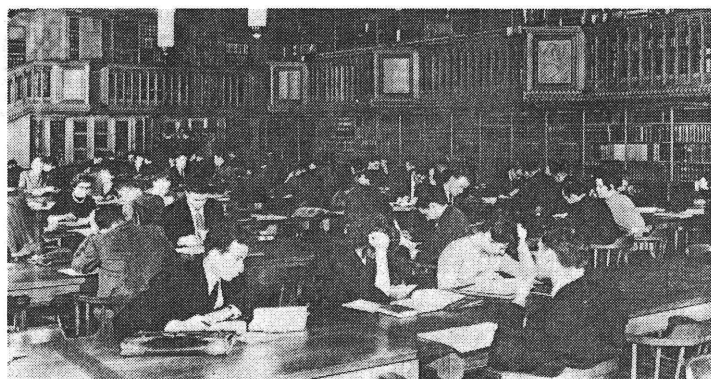
ルーヴァン大学図書館に学ぶ

森 本 芳 樹

1964年10月、新幹線開業の直後で東京オリンピック開幕の数日前に、横浜から船で出発し、ソ連を通過して最初の留学に出かけた私にとって、目的地であるベルギーのルーヴァン大学に着くまでも、それから勉強の態勢を整えていった当初の期間も、何もかも珍しく、新しく、刺激的であった。中でもおおいに感激したのは、大学図書館で勉強を始めた時だった。着いて3日目には大学図書館に出かけて閲覧票を作ってもらい、カードを繰って前から見たかった本の番号を調べてみた。当時の日本には、私の専攻していた西洋中世経済史の書物はなんとしても少なく、一般的なものは一応揃ってはいたが、『9世紀ルーヴァンにおける土地所有と農業経営』というような、個別研究の類は殆ど見ることができなかったのだ。ベルギーでも王立図書館に次ぐ蔵書を誇るルーヴァン大学図書館には、私の読みたいものは何でもあった。数冊を請求して、しばらくして出てきた書物を持って、大広間のような閲覧室の一隅に腰を下ろして頁をめくる。長旅の疲れと燥状態とで、落ち着いた読み方は勿論できなかったが、それでも憧れの書物のいずれにも、中世の史実がいっぱいに書き込まれているのを見て、体が震えるほどの感動を覚えた。しばらくたって少しづつ周りを見回す余裕もできると、すぐに目に入るのは美しい女性たち。日本の大学図書館よりもずっと女性の比率が高く、華やかな服装ではないが、当時男子学生の半分以上は地味な背広とネクタイだったから、それだけ勉強している女性の姿が真善美の体現のように浮かび上がって、私の幸せ感はさらに高まった。もう一つ目についたのは、高い天井の大閲覧室の周りの壁がすべて開架の書棚になっていて、そこに何万冊かの書物が並んでおり、それらを利用するために4層のギャラリーが設けられていて、現に何人もがあちこちで調べものをしていたことである。後に分かったことだが、中世史の主要な史料集や双書は殆ど全てここに開架されていて、教授も学生も閲覧室で勉強している人たちを見下ろしながら、参考書目に当たるようになっていたのだ。ここで写真を見て頂きたい。これは、『ルーヴァン大学 1425—1975年』という、同大学創設550周年記念の書物 (*The University of Louvain: 1425-1975*, Leuven University Press, 1976) から借用したもので、1枚はまさに私が留学した頃の大閲覧室の様子



ルーヴァン大学の紋章



を示している。奥に見えるのがギャラリーの第1層である。この作りは、もう1枚の写真に見える、17世紀半ばから1914年まで機能していたルーヴァン大学の旧図書館と、壁面高くまで書棚にして閲覧室を取り囲むというコンセプトを、同じくしているのである。

ここで勉強していて強く感じられたのは、学生から若手研究者を経て老大家までを包み込んだ学問共同体という雰囲気である。ふとギャラリーを見上げると、私の先生であるL. ジェニコ教授の大きな背中が見えることもしばしばであった。「先生は今何を調べているのかな」と、手にされている書物の戻された場所に目を留めていると、ふっと振り向いた先生がニヤっとし、同じ思いと見えてギャラリーをのしのしと降りてきざまに私の席にやってくる。肩ごしにのぞきこんで、「何で君が『修道院規定集』なんか見ているんだね」との御下問、「コルビーのアダルハルドゥスです」と、私は荘園管理についての指示を残している修道院長の名を挙げる。「ああそれなら最近の研究があるよ」との御指摘に、「これでしょうか」と、私は目の前に数冊積んだ一番下から、数年前の雑誌『中世』をオズオズと取り出して、この史料についての最新と思われた論文を見せる。「そうそう」とうなずいた先生は、まあよからうという顔つきで去っていく。ホッと目あげた私に、貸出カウンターの向こう側から、係のおじさんがウインクしてくれる。ジェニコ先生の姿が見えなくなったのを確かめてから、私は立ち上がり、先生の見ていた書物の所に上がって行って、調べものはその週の演習のためだったと知る。こういった無数の人間的な交流を自然に作り出すところに、この閲覧室の空間組織のよさがあるのだと、だんだん分かってきた。

ルーヴァン大学図書館での勉強が進んでくると、私の中世についての知見も具体的となり、ルーヴァンという町の歴史も多少勉強して、図書館と町とを重ねて合わせて見るようになっていった。この町は中世都市の姿をととてもよく留めている（興味のある方は、森本芳樹「文化としての中世都市」『週刊朝日百科・世界の地理』26号を見て下さい）のだが、大学本部となっている後期ゴシックの毛織物取引所の建物などと比べて、図書館は様式こそフランドルの古風を出しているが、いかに

も近代的で機能的にしつらえられた広場に臨み、広く、高く、すっきりしていて、中世風とはかなり違った雰囲気である。この大学の当初の図書館が現在の大学本部の建物の中にあったものが、第一次大戦の際にドイツ軍が住民の抵抗運動への報復としてこの町を破壊した中で、灰塵に帰してしまい、その後場所を移して新たに建てられた20世紀の建物が、現在の図書館だからなのである。ヴェルサイユ講和会議でルーヴアン大学図書館の復興が取り上げられ、ドイツが賠償の一部としてこの図書館で燃えたものに見合うだけの書物を返すことになって、それは面白いことにナチスの支配下にも続けられていったという。他方でアメリカを中心に大がかりな募金運動があって、新しい建物の資金が集められた。だから、この図書館の正面には、ルーヴアン大学の紋章の図柄である幼子イエスを抱く知の守護者マリアの像が、野蛮な兵士の破壊に屈しなかった姿で、レリーフとしてはめ込まれているのである。ところが第二次大戦が起こると、再びルーヴアンはドイツ軍に占領され、砲撃によって図書館もまたまた破壊されてしまう。今度は戦後の再建は全面的にアメリカの援助で進められ、正確に言うところ現在の図書館はその時に再建された建物なのである。この町で中世に繁栄した毛織物工業が衰退した後に創設され、町の中で息づいていた大学の図書館は、「殉教都市」とさえ呼ばれる両大戦の被害者であるルーヴアンと運命をともにして、大きな受難を経験していたのであった。

ルーヴアン大学図書館の受難は、私の第1回留学の後にもう1度やってきた。実は現在ではルーヴアン大学というのは、古都ルーヴアン（この町の公用語であるオランダ語読みならレウヴェン）にあって、オランダ語を使っているレウヴェン・カトリック大学と、1970年代に30キロほど南のフランス語圏に建設された新都市ルーヴアン・ラ・ヌーヴにあって、フランス語を使っているルーヴアン・カトリック大学との総称である。それぞれの公式名称が、Katholieke Universiteit Leuven と Université catholique de Louvain で、英語名がいずれも Catholic University of Louvain となるのだから、まことに紛らわしい。詳しく説明する紙数がないが、従来単一の団体だったルーヴアン大学が、ベルギーの言語紛争の渦中で分裂して、オランダ語系がオランダ語圏の現地に残り、フランス語系がフランス語圏に移って、二つの大学になったのである。そして、この過程で図書館も分裂して、フランス語系は書物を半分持って行って、ルーヴアン・ラ・ヌーヴに新しい建物を作ることになった。収集されている資料の二分は難しく、時には偶数番と奇数番というような分け方もされたようだ。今では、大切な本がどちらかにしかないという場合も多く、図書館として失ったものは大きい。しかし幸いにも情報化時代だから、現在流のコンピューターを使った運営によって、書物というハードの収集に局限されない、新しい情報ネットワークの拠点としての図書館が、いずれの大学でも志向されているのは、心強いことである。

(経済学部 教授)

「九州大学附属図書館一般市民等利用内規」の制定について

大学附属図書館の一般市民等への公開は、開かれた大学等に対する地域住民の要望の中でも上位にランクされております。大学図書館関係者はこのことを十分承知し、実態としての図書館の公開は、全国で96.4%、国立大学で96.9%、公立大学で92.7%、私立大学で96.6%であり、特に地域住民等に利用を認めている大学は80.6%となっております。(平成3年度実態調査)

本学では、昭和48年制定の「九州大学附属図書館運営規則」及び「九州大学附属図書館中央図書館利用規定」等により、中央図書館では「館長が特に必要と認め許可する者」としての一般市民等の図書館利用を受け付けており、実態として多数の一般市民等に利用されております。また、分館・部局図書室においてもそれぞれの利用規則等により、分館長等が許可する者の利用について、可能な範囲で対処しております。

なお、本学附属図書館の一般市民への公開を規程上明確にすることは、過去検討されていたことではありますが、このたび「九州大学附属図書館一般市民等利用内規」を制定するにいたしましたので、ここに掲載します。

(情報サービス課 閲覧掛)

九州大学附属図書館一般市民等利用内規

平成6年2月4日
附属図書館長決裁

(趣旨)

第1条 この内規は、本学の実教育研究に支障のない範囲内で、本学附属図書館（以下「図書館」という。）を一般市民等の利用に供するため、その利用について必要な事項を定めるものとする。

(利用者)

第2条 この内規において「一般市民等」とは、九州大学附属図書館運営規則第4条第2項に規定する者のうち、学術にかかわる学習又は研究・調査を目的とする一般市民及び民間機関等に所属する者（以下「利用者」という。）をいう。

(利用対象資料の範囲)

第3条 利用者が利用できる図書館資料（以下「図書」という。）は、原則として大学図書館特有の学術にかかわる図書で、中央図書館及び分館の所蔵するもの並びに部局の所蔵するもののうち中央図書館又は分館が利用の提供を委託されたものとする。

第4条 部局の所蔵する図書（前条に規定するものを除く。以下同じ。）の利用については、部局長が別に定めるところによる。

(利用の範囲)

第5条 利用者は、前2条の図書を指定された場所で閲覧することができる。

2 利用者は、必要に応じて、九州大学附属図書館文献複写規程（昭和42年5月10日施行）に基づき、文献複写のサービスを受けることができる。

3 利用者は、必要に応じて、学術情報についてのレファレンス・サービスを受けることができる。

4 利用者は、図書を帯出することができない。

(利用の期間及び時間)

第6条 前条第1項から第3項までに規定する利用は、図書館開館期間及び時間内とする。

2 前項の規定にかかわらず、本学の試験期間中は利用できないことがある。

(利用の手続)

第7条 中央図書館又は分館の利用者は、あらかじめ往復葉書に利用目的及び利用期間を記入の上、館長又は分館長に提出し、その許可を得るものとする。

2 利用者は、入館に際し、前項の返信用葉書を提示しなければならない。

3 前2項の規定にかかわらず、公共図書館からの紹介状又は所属する民間機関等の依頼状をもって往復葉書に替えることができる。

4 継続的利用が必要と認められた者は、所定の申請書を提出し、一定期間有効な閲覧証の交付を受けることができる。

第8条 部局の所蔵する図書の利用者は、あらかじめ中央図書館又は分館の紹介を受けるものとする。

(指示遵守)

第9条 利用者は、図書館の係員の指示に従わなければならない。

(弁償責任)

第10条 図書を汚損又は亡失した者及び備品を損耗した者は、弁償の責任を負う。

(利用の禁止)

第11条 館長又は分館長は、この内規に違反した者に対して、利用を禁止することができる。

(雑則)

第12条 この内規に定めるもののほか、この内規の実施に関し必要な事項は中央図書館にあっては館長が、分館にあっては分館長が、部局にあっては部局長が定めるところによる。

附 則

この内規は、平成6年4月1日から実施する。

(((資料紹介)))

CD-ROM 版 特許公報検索方法

特許公報がCD-ROM版へ変わることにについては、図書館情報 Vol. 28 No. 3により予告していましたが、平成5年10月発行分の公開公報(特開平(A)05-252801, 実開平(U)05-072201)よりCD-ROM版へ変わりましたのでお知らせします。これにより、上記以降発行分の公開公報は、CD-ROM版で利用していただくこととなりました。

なお、公告公報についても平成6年1月発行分からCD-ROM版へ変わりました。現在、公告公報

も利用できるよう検索ソフトのバージョン・アップ中ですので、準備が整い次第お知らせします。
以下に公開公報の検索例をあげておきますので、参考にしてください。

CD-ROM公開公報検索の基本例

はじめに

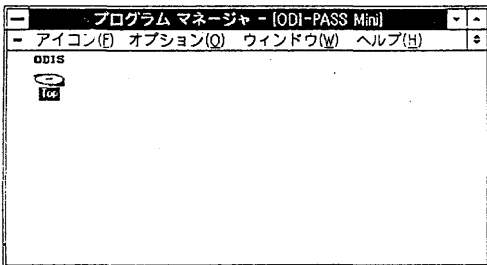
この検索ソフトはMS-WINDOWS上で動きますので、操作は、マウスを使って行います。検索はマウスによるクリック(時にはダブルクリック)でいくつかの選択肢から選択しながら進みます。以後は、マウスでクリックすることによる選択を単に“選択”ということにします。

クリックとはマウスの左のボタンを一度だけ押すことで、ダブルクリックとはそれをすばやく二度繰り返すことです。

準備：パソコン本体の電源を入れ、CD-ROMをCDドライブにセットします。

プリンタを使う場合はプリンタの電源も入れます。

- ① 「A: ¥」の画面表示に続けて「WIN」と入力し、 キーを押します。(WINDOWSの起動)



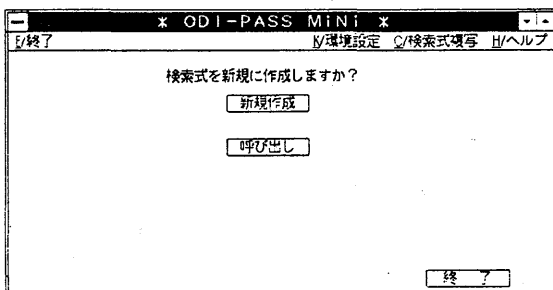
- ② 「ODI-PASS Mini」のアイコンが表示されますので、それにマウスカーソルを合わせダブルクリックします。

<検索システム画面へ移行>



- ③ 「開始」ボタンを選択します。

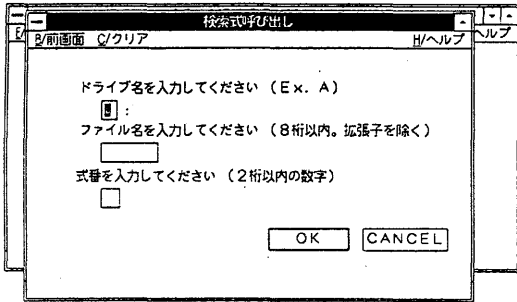
<メニュー画面へ移行>



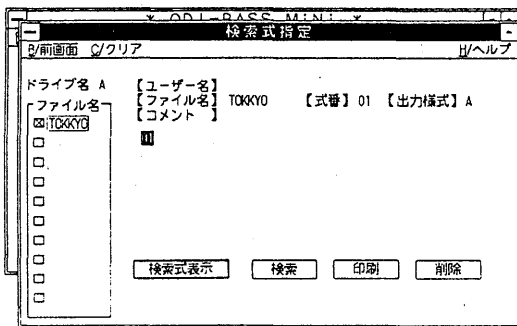
- ④ 「呼び出し」を選択します。

(既に登録してある式を利用するために呼び出します。)

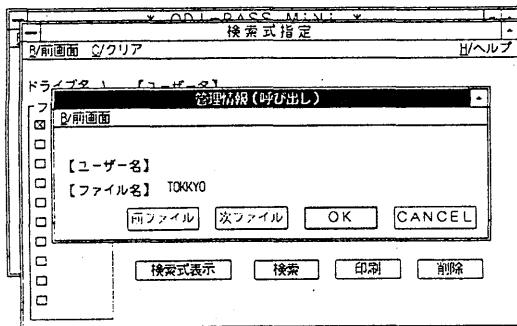
<検索式呼び出し画面へ移行>



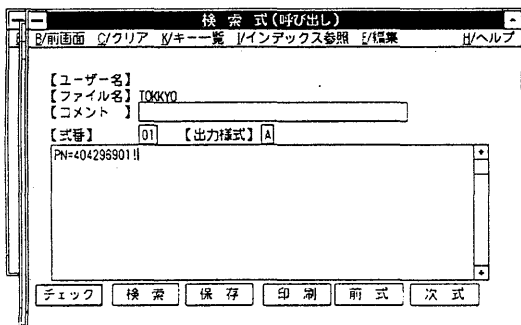
- ⑤ 「OK」を選択します。
 <検索式指定画面へ移行>



- ⑥ ファイル名 TOKKYO, 式番 01, 検索式表示 を順に選択します。
 <管理情報画面へ移行>



- ⑦ 「OK」を選択します。
 <検索式入力画面へ移行>



- ⑧ 既に検索式が入っていますのでこれを利用するか、またはこの検索式を全て削除して新に検索式を作成します。

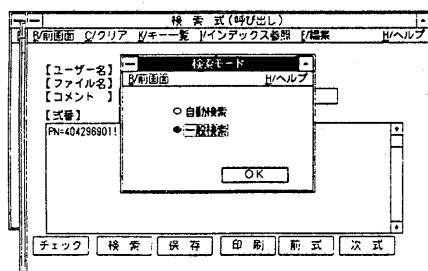
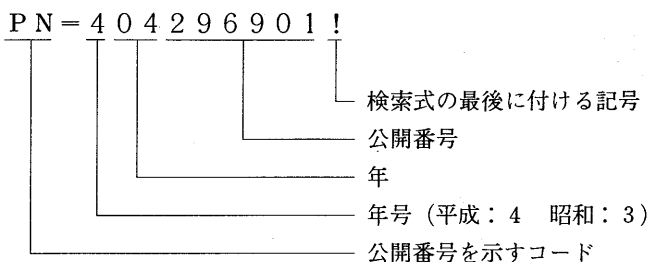
入力カーソルは最初、【コメント】欄で点滅していますので、このままでは式の入力はいけません。マウスで検索式入力欄をクリックすることにより、点滅カーソルを検索式入力欄へ移して式の入力を行います。

▲注意：検索式の最後には必ず「!」を付けてください。

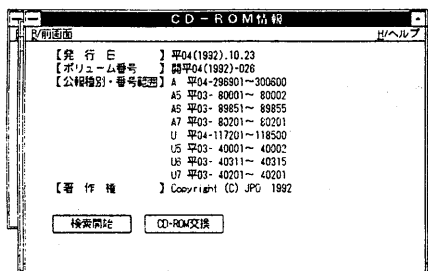
検索式作成後「検索」を選択します。

<検索モード画面へ移行>

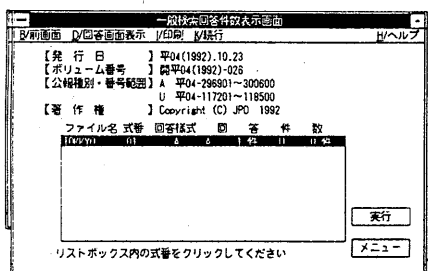
検索式の説明（例：特開平4年296901号を検索する検索式）



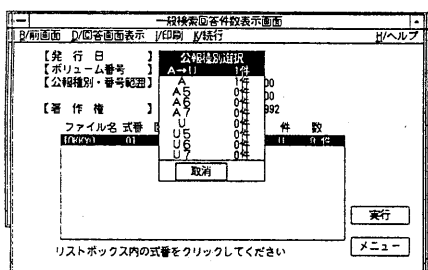
- ⑨ 「一般検索」を選択の後「OK」を選択します。
（自動検索を選択すると自動的に印刷にまで進みます。）
＜CD-ROM情報画面へ移行＞



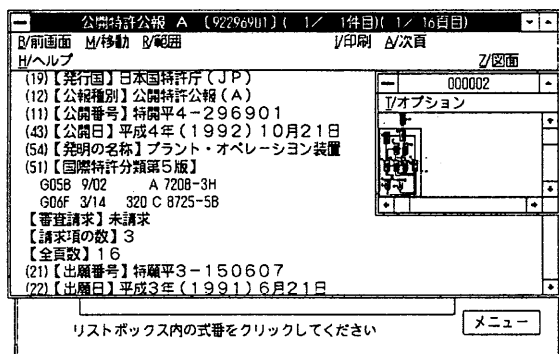
- ⑩ 現在セットしているCDの内容が表示されるので、
確認のうえOKなら「検索開始」を選択します。
＜一般検索回答件数表示画面へ移行＞



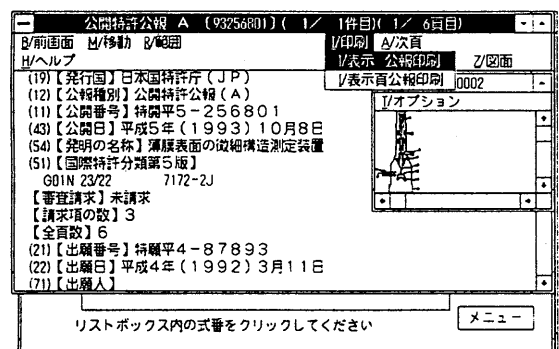
- ⑪ 「D/回答画面表示」を選択します。
リストボックス内の式番「01」を選択の後「実行」
を選択します。
＜公報種別選択画面へ移行＞



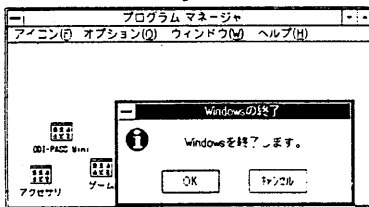
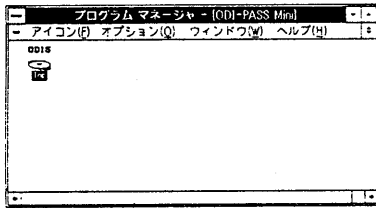
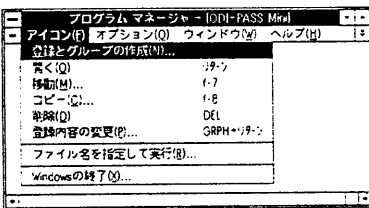
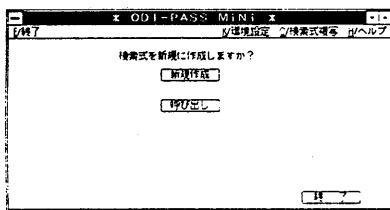
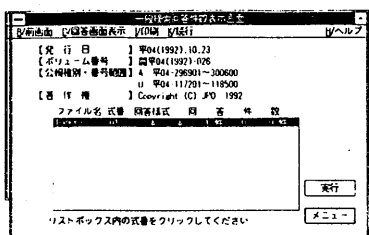
- ⑫ ヒットした公報種別(A, U等)を選択します。
＜回答画面表示へ移行＞



- ⑬ この画面の続きを表示するには「A/次頁」を選択するか「↓」(下スクロール矢印)をクリックします。



- ⑭ 表示している公報を印刷するには「I/印刷」を選択の後、全頁印刷の場合は「I/表示公報印刷」を、表示頁印刷の場合は「I/表示頁公報印刷」を選択します。



⑮ 検索の終了

- この画面で「B/前画面」を選択。
- “一般検索回答件数表示画面”の「メニュー」を選択。
- “メニュー画面”で「終了」を選択。
- ODI-PASS Miniアイコン表示画面でメニューバーから「アイコン(F)」を選択し、「Windowsの終了(X)」を選択。
- Windowsの終了画面で「OK」を選択。初期画面「A: ¥」表示。
- CDドライブの **EJECT** ボタンを押し、CD-ROMを取り出す。

⑯ 電源の切断

- 「A: ¥」の画面表示状態で **STOP** キー(キーボードの左上端)を押します。(ハードディスクの終了処理)
- 本体とプリンタの電源を切ります。

中山文庫について

昭和35年に中山小春氏が本学へ寄贈されたもので、文庫の内容は、実兄二人の中山森彦氏と中山平次郎氏が収集された美学・美術史関係図書及び考古学関係図書、4,633冊(和書：3,643冊, 洋書：990冊)である。

中山森彦氏は、京都帝国大学福岡医科大学(現在の九州大学医学部)整形外科初代教授で、大正2年1月15日初めて整形外科外来診療を開始された。同年1月26日二代目附属病院長に就任された。

中山平次郎氏は、同福岡医科大学病理学初代教授で、多くの俊秀を育てながら、考古学にも関心を持たれ、大正2年頃から考古学に関する論文を発表され始め、自ら九州考古学の開拓者としての道を切り開かれた。「九大医報」第20巻3号にも論文を発表されている。「九州帝国大学医学部二十五年史」昭和3年発行の編集委員として活躍された。

これらの図書が寄贈される際に「中山文庫目録」のリストが作成されたが、現在この目録は僅少である。このため、パソコンソフトを利用して冊子体の「中山文庫目録(和書)」を作成し、検索システムによって、書名、著者等を検索出来るようにした。
(文学部 図書掛)

(((電算化ニュース)))

『KITE』によるOPACサービス開始

附属図書館では、平成6年1月25日、本学学内LAN「KITE (Kyushu university Integrated information Transmission Environment)=九州大学総合情報伝達システム」の第1期分の稼動に合わせて、OPAC(利用者用オンライン目録)サービスを拡張、「KITE」経由でのアクセスが可能になりました。

OPACの利用は、これまでは電話回線と大型計算機センターの汎用コンピュータ経由の方法により行われておりましたが、今回の「KITE」接続により、本学の図書・雑誌所在情報検索のための利用環境がさらに整備されたことになります。今後は、研究教育活動を支援するツールとしての役割を一層果たすため、検索システムの操作性の向上やデータベースの拡充、利用時間帯の延長を図っていくことが必要であり、検討を開始したところです。

附属図書館では、この外、電子メールや掲示板システムを使った利用者とのメッセージ交換、CD-ROMサーバシステムによるデータベース提供等の新たな図書館サービスを検討中です。

「KITE」経由でのOPAC利用については、情報システム課システム管理掛(内線 2434)へお問い合わせください。
(情報システム課 システム管理掛)

本学教官・名誉教授著作寄贈図書

＜教養部分館＞

合山 究(養)

「雲烟の国：風土から見た中国文化論」
東方書店 1993

高橋 憲一(養)

「コペルニクス・天球回転論」 コペルニクス著 高橋憲一訳・解説
みすず書房 1993

海老井 英次(養)

「ふるさと文学館 第46巻：福岡Ⅰ」
海老井英次責任編集
ぎょうせい 1994

◆ 研 修

第13回西洋社会科学古典資料講習会に参加して

益 森 治 巳

《とき：平成5年10月25日～10月28日 ところ：一橋大学社会科学古典資料センター》

この講習会も13回目を迎え、本学からの参加は私で9人目ですが、定員に対しての受講希望者はかなり多いらしく、3回目の申込でやっと参加することができました。私自身、まさにこの西洋古典資料を整理しつつある（しなければならない）状態ですので、気楽に見聞を広めてという訳にもいかず、いささかプレッシャーを感じながらの参加となりました。なお、この講習会は本来図書館員だけではなく、西洋社会科学古典の研究者をも対象としたものですが、今回の参加者は全て図書館員でした。また、内容的にも「西洋古典研究」、「西洋書誌学」、「西洋古典資料の保存・修復」の3つを柱としていますが、今回は「書誌学」と「保存・修復」の比重が大きくなって図書館員を重視した形となっていました。

《講習日程》

第1日

古典研究（総論） 津田内匠 一橋大学名誉教授
社会科学古典の探索
書誌学（Ⅰ） 川原和子 元名古屋大学図書館
分析書誌学の手引き
書誌学（Ⅱ） 岩田行雄 ナウカ株式会社
ロシアの書籍印刷 ―その始まりから18世紀初頭まで―

16世紀の欧文活字 ―プランタンの活字を中心として―

第3日

古典資料の保存・修復（Ⅰ） 岡本幸治 製本家
本の歴史的形態と資料保存
古典資料の保存・修復（Ⅱ） 見城敏子 東京国立
文化財研究所名誉研究員
書庫内の環境と古典籍・古文書の保存
情報交換・座談会

第2日

古典研究各論（Ⅰ） 城戸毅 東京大学文学部教授
ヨーロッパの主要図書館と古典籍の相伝
書誌学（Ⅲ） 高野彰 東京大学文学部図書主任
英米の書誌学の実際
書誌学（Ⅳ） 中井えり子 名古屋大学法学部図書
掛長

第4日

古典研究各論（Ⅲ） 永井義雄 一橋大学社会科学
古典資料センター教授
ベンサムとオウエン
古典資料の保存・修復（Ⅲ） 武者小路信和 大東
文化大学文学部助教授
利用者、図書館員から見た古典資料の保存

以上の講義は受講する側よりもむしろ、講義をされる方のほうが熱が入っており、西洋古典資料に関する考え方や基礎知識を与えてくれたものでしたが、以下では、現実に目録を作っている立場から、記憶に残ったこと、考えたことをいくつか書いてみます。

まず、書誌記述をどうするかという点について。書物というものはその書かれた内容だけに意味がある訳ではなく、成立過程や形態、歴史的な位置づけを調査することにより、研究上新しい側面が開ける場合があります。またその場合、書誌学というものが極めて有効な手段となるという話がありました。これを目録作成者の立場で考えると、資料に対して内容のみが必要だという場合と、形態を含めた全ての情報が必要だという場合にわかれると思います。内容のみが必要だということであれば、アクセスポイントを整備し現物にたどりつけるようにしておけば良いということになります。一方で、全ての情報が必要だということになれば、目録記述の中でできる限りその資料の特性を表現しなければいけないため、書誌学の知識が重要となります。しかし、物の代わりとなりうる古典資料の目録を作ろうとすると、一般的な目録規則以外に、紙、折丁、印刷、造本等の幅広い知識が要求されますし、これらはまた対象資料の時代、地域によって異なる部分もあるでしょう。基本的な書誌学の知識は当然必要ですが、実際の目録作業においては、大英博物館目録等の記述を参考に何とか目録を作成しているという状態ですので、現実的に我々が完全な目録を作成することは困難であろうと思います。また、現在の目録記述では表現できない重要なものとして、印刷活字や印刷商標等の図形的な情報も挙げられるかもしれません。これらを考えると、オンライン目録で作成した機械可読形式の書誌記述と標題紙の写真（画像）をCD-ROMにおさめた目録を作成するというのも一つの案だと思います。実際にこの形の目録を作成している所もありますし、CD-ROM自身、本来このような形での利用に適していると思われます。目録記述で表現しきれない部分について画

像で情報を提供するという方法は、易きに流れるということではなくむしろ望ましいことではないでしょうか。

また、目録作成の手段という点に関しては、事前のアンケートで西洋古典資料の整理をどのようにして行っているかというものがあり、ほとんどの図書館がNACSIS-CATを用いているとの回答をしていました。アクセスポイントの多様化という点では、オンライン目録が望ましい訳ですが、「古典資料の目録は読むものであり、検索過程で関連情報を発見することが重要だ」という声も多いと思います。関連情報の一覧機能という点では、冊子体やカード目録に一日の長があるでしょうし、オンラインデータのみあれば良いという訳にはいかないかもしれません。さらに、現実にNACSIS-CATで西洋古典資料の目録を作成しようとすると、オンライン目録に固有である「書誌単位」という概念がでてきます。西洋古典資料は常に出版されたままの状態に残っている訳ではなく、私家製本されたり、合綴されたりと様々な状態となっているため、NACSIS-CATの書誌単位概念上でどう表現して良いか分からないこともあります。NACSIS-CATは古典資料をも想定して作られた訳ではないでしょうから、規定の整備やノウハウの蓄積で解決するしかないのかもしれませんが、現実的には大きな問題であると思います。

次に西洋古典資料の保存・修復について。今回の講習会からこの保存・修復についてはコマ数を3コマに増やし、力を注いでいるようでした。内容も研究者による講義だけではなく、実務的な専門家による中性紙書見台、中性紙ブックカバーの作成実演も交えたもので、かなり興味をそられました。この問題に関しては、酸性紙の劣化防止や劣化資料の脱酸処理などが以前から語られていましたが、ここ1～2年の間にはかなり研究は進んでいるようです。ただし、これは劣化のメカニズム等に関してであり、劣化してしまった資料のベストな修復方法はまだ無く、今我々にできることは劣化を進めないためにはどうするかということだけのようです。実際、他の受講者と話をしてみると、貴重な資料については、全て中性紙ブックカバーで覆うなどの処置を施しているところもありましたが、この点に関しては、やはり国立大学のほうが遅れているような気がします。

最後になりましたが、講習会の運営にあたって一橋大学社会科学古典資料センターの方々のご苦労は大変なものだと思います。しかし、現在我々が受講できる西洋古典資料に関する講習会はこれだけです。今後とも末永く続けていただければと願っています。

(情報システム課 第二目録情報掛)

講演会開催の報告

平成5年度図書系職員のための研修事業の一環として、次の講演会を開催しました。

「C. G. ユングと錬金術」

講師：池田 紘一（文学部助教授 独文学）

日時：平成6年2月1日（火） 午後3時から

** Current Topics **

インターネットで利用できる欧米の図書館

このほど完成した学内LAN「KITE」に接続すれば、インターネットと呼ばれるコンピュータネットワークを通じて世界中のコンピュータと通信ができるようになります。たとえば、研究室のパソコンからこのインターネットにつながっているアメリカの大学図書館・研究図書館等のデータベースを検索することもできます。アメリカではLC（議会図書館）や大学図書館等合わせて450以上、ヨーロッパ地域では190以上もの機関がこのネットワークに参加し、IPアドレスと呼ばれる接続のためのアドレスを公開しています。利用できるデータベースは図書館の所蔵目録が中心ですが、雑誌記事索引や論文データベースを公開しているところもあります。ほとんどの場合、利用のための手続きは必要なく、料金は不要となっています。

(((お知らせ)))

自然科学系特別図書の購入について

この特別図書は「自然科学系の教育研究上緊急に必要なでかつ経常経費では購入し難い叢書、全書、データ集で、学内での予算措置が困難なもの。中央図書館に備え付け共同利用に供するもの」の購入経費として、平成5年度に新設されました。

平成5年5月、自然科学系の各部局からの推薦をもとに「自然科学系図書資料収集計画調書」を文部省に提出致しましたところ、今年度九州大学については、次の資料が採択されました。

Landolt-Börnstein. Numerical Data and Functional Relationships in Science and Technology. NS.

Group III. Crystal and Solid State Physics. Springer, 1988-1993.

Vol. 19c, 19d/1-2, 19e/1-2, 19f/1-2, 19g, 19h, 20c, 21a, 22a, 22b, 23a, 25, 26, 27a, 27d, 27e, 28a, 28b.

既蔵の1-20bと併せて中央図書館参考図書室に配架しますのでご活用ください。

(情報管理課 受入掛)

◆ 訃 報 ◆

二 宮 純 恭 氏、御逝去

元、本学附属図書館情報管理課長補佐(前、熊本大学附属図書館情報サービス課長)、二宮純恭氏はかねて九大病院で入院治療中でありましたが、去る平成5年12月14日御逝去されました。二十数年にわたって本学附属図書館の業務推進にご尽力されたことに深く感謝し、ここに謹んでご冥福をお祈りします。

◆ 日 録 (平成5年11月～平成6年1月)

- | | |
|--|---|
| 11. 1 平成5年度 NACSIS-IR 講習会 (学術情報センター) | 11.25 第26回国立七大学附属図書館部課長会議 (九州大学) |
| 5 OPAC(利用者用オンライン目録) 操作に関する説明会 11/5. 10. 12. 17. 19. 24 | 26 第67次国立七大学附属図書館協議会 (九州大学) |
| 8 平成5年度漢籍担当職員講習会 (京都大学) 11/8～12 | 12. 1 ビデオ試写会 (「図書館の達人」) |
| 中央図書館利用オリエンテーション 11/8. 10. 12 (11. 留学生オリエンテーション) | 7 平成5年度職員研修会 |
| 学内LAN対策会議 | 17 平成5年度職員研修会 |
| 11 平成5年度職員研修会 | 1.14 平成5年度職員研修会 |
| 12 資料の保存に関する調査研究班 WG 会議 | 17 学内LAN対策会議 |
| 16 中央図書館内ツアー 11/16～12/16の毎週火及び木曜日 | 19 平成5年度国立七大学附属図書館事務部長会議 (横浜国立大学) 1/19～20 |
| | 21 システム検討総括WG(第2期)(第1回)会議 |

◆ 人事異動 (平成5年11月～平成6年1月)

- | | | |
|-----------------------------------|--|--|
| (中央図書館) | | (工 学 部) |
| 6. 1. 1 玉井 浩章 情報管理課庶務掛 (文部事務官) 採用 | | 5.11. 1 下本地晴子 応用物質化学科・図書担当 (応用物質化学科・事務室) |
| 内野 和宏 理学部庶務掛 (情報管理課庶務掛) | | 30 高良紀久子 退職 (応用物質化学科・図書担当) |
| (医学分館) | | |
| 5.11. 1 児玉 浩憲 参考調査掛 (群馬大学工学部分館) | | |

編集委員 主査・松本 連蔵, 委員・山田 律子, 木村 勝, 下川 幸士, 舟越 俊允, 山田 玄連, 深川 光郎, 林田 和政, 青柳 良輔

九州大学附属図書館報「図書館情報」 Vol. 29, No. 4 (通巻170号)

1994年3月1日・発行人 近藤 禎 提 男

発行所 九州大学附属図書館・〒810福岡市東区箱崎6丁目10番1号 電話 641-1101 内線 2454